

---

とよなか

Vol.33

令和5年度

---

研究紀要

## はじめに

本校教育活動の総括として、研究紀要「とよなか vol. 33」を発行いたします。今年度の実践交流会における、研究授業や各教科研究会等のポスター発表を中心に本校の教育実践をまとめています。新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、以前と同じように取り組めることも増えてきましたが、コロナ禍において新たに取り組んできたICTの利活用や新しい生活様式で児童生徒の「できること」「わかること」の促進と、「もっとやってみたい」の幅の広がり大きなものになったと感じています。今回も教員一人ひとりが授業を大切に作る姿勢を忘れず、それぞれ工夫してきた成果をご覧いただければ幸いです。

本校では、引き続き「キャリア教育」「防災教育」「ICT機器活用」を3つの柱として日々の教育活動を実践しています。特に「ICT機器の活用」については、各学部・学年・学習グループでの授業づくりがさらに進み、各教員がICT活用についての情報交換、情報共有を有効にすすめ、児童生徒の「もっとやってみたい」を促進しています。今後も、有効なICT機器の利活用を進め、より充実した教育活動の実践に努めていくとともに、より多くの情報を地域や大阪府内の各支援学校に発信していきたいと考えています。

まだまだ改善すべき点多々ある本紀要ですが、少しでも他校の参考となれば幸いです。何卒ご高覧いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、関係機関の皆さまには日ごろより温かなご支援、ご理解を賜り、心より感謝しております。これからも引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年3月

大阪府立豊中支援学校長 平井 晋也

# 目次

はじめに

I 教科会からの実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3  
算数・数学 生活 社会 英語 家庭 職業

※国語、理科、音楽、図工・美術、保健体育に関しては  
ポスター発表と兼ねているため、ポスターのみ掲載しております。

II 各学部のポスター発表  
小学部 『小学部第1学年「生活」の授業の取り組みについて』・・・・・・P14  
中学部 『中学部第2学年 進路に向けた取り組み ～仕事について知ろう～』・・・P16  
高等部 『高等部第3学年「情報」～修学旅行の取り組み～』・・・・・・P19

III 教科会のポスター発表  
国語『みる・きくワーク ～物語の動画を見て考える～』・・・・・・P21  
理科『理科の授業紹介（「五感」を使った金属の分類）』・・・・・・P23  
音楽①『ICTを活用した「やってみたい」を促す授業  
～Keynoteを使った取り組み～』・・・・・・P24  
②『ICTを活用した「やってみたい」を促す授業  
～楽譜作成アプリを使った取り組み～』・・・・・・P25  
図工・美術『今日から実践できる図工のあれこれ』・・・・・・P27  
保健体育『リトミックの実践について』・・・・・・P28

IV 教職員の研究授業  
〈小学部〉国語科：学習指導案、研究協議記録・・・・・・・・・・・・P29  
〈中学部〉国語科：学習指導案、研究協議記録・・・・・・・・・・・・P41  
〈高等部〉 理科：学習指導案、研究協議記録・・・・・・・・・・・・P50  
  
豊中支援学校 キャリア教育6観点表・・・・・・・・・・・・・・P60

あとがき

## I 教科会からの実践報告

### 算数・数学科教科会 実践報告

#### 小学部

数の勉強（小学部2年）

パワーポイントで一問一答式の問題を作成し、一人ひとりに10までの数の中で、丸のついた数を数え、答えさせる。1から10まで、順番に問題を出さず、ランダムに1から10までの数の問題が出るようにした。丸の数を数え、答えた後、その数の数字を書く練習を行った。

#### 中学部

分数ものさし作り

目標…等分することや単位分数の何個分で表すことについての理解を深める

準備物…紙テープ（1m）、模造紙（平行な直線を11本描いておく）

方法…1mの紙テープを準備し、模造紙に等間隔に描いた0から10の平行な直線の上に、紙テープを置く。その際、紙テープの端を0と作りたいメモリの分母の数字の直線に合わせて、平行な直線と交わったところに目盛りをとる。同様に、分母の異なる目盛りもとる。

#### 高等部

サイコロゲーム（引き算）

準備物…サイコロ2個（大と小）、カード

準備…生徒一人につき10枚のカードを持たせておく。（WBに磁石等で貼るとわかりやすい）

- 1 生徒二人がそれぞれサイコロを転がす。
  - 2 サイコロの目の差の計算を、大サイコロを転がした方が行う。
  - 3 目の大きい方に小さい方から差分のカードを渡す。同じ目が出た場合その自分のカードを両者から引きもう一度サイコロを振る。
  - 4 小サイコロを持っている生徒が大サイコロに持ち替え、小サイコロを別の生徒に渡す。  
（わかりやすくかつ平等に大サイコロを転がしてもらうための配慮でありどちらの生徒がどっちのサイコロを投げてもルール上問題はない）
  - 5 1～4を繰り返す。
  - 6 カードがなくなった生徒はサイコロを1回転がし、その時一番カードを多く持っている生徒からその目の分のカードを引く（引かれたカードは回収する）。
  - 7 残った生徒が大サイコロを持ち、小サイコロを誰か指名する。
  - 8 さらにカードがなくなった生徒が出た場合、前になくなった生徒もサイコロを振り、一番カードを多く持っている生徒から引く。☆最後まで残っていた生徒の勝利。
- ※ 「8」は脱落した生徒が多くなるとすぐなくなってしまうので、その場のカードの残り枚数を見て行なうかどうか調整する。

# I 教科会からの実践報告

## 生活科教科会 実践報告

### 1. テーマ

小学部の徒歩学習について

### 2. はじめに

小学部では、生活の授業の中で徒歩学習を取り入れている。徒歩学習には徒歩と散歩がある。徒歩は、集団で歩くことを目的とし、散歩は、集団で公園などまで歩き、そこで身体を動かすことを目的として取り組んでいる。学習指導要領では、自分の身を守る適切な行動を知る（危険防止）、交通ルールを学ぶ（交通安全）、友だちや教員と楽しく遊んだり、きまりを守って遊んだりする（遊び）、自然との触れ合い（生命・自然）などの項目が該当する。今回は、小学部の各学年にアンケートをとり、散歩で行っている公園の所要時間、遊具の種類、信号や横断歩道などの有無について調べた。また、散歩がどのようなキャリアに関する観点とつながっているのかをまとめることにした。

### 3. 近隣の公園への所要時間・遊具の種類・信号・横断歩道の有無

公園名	時間（片道） およその距離	遊具の種類	ルート内に 信号	ルート内に 横断歩道
緑丘北公園	12分 560m	スプリング遊具 すべり台、複合遊具	あり	あり
西脇公園	15分 670m	大きなすべり台 ターザンロープ、 砂場、複合遊具、グラウンド	なし	あり
西緑丘新池公園	20分 960m	ジャングルジム スプリング遊具 ローラーすべり台	あり	あり
野畑東公園	25分 960m	砂場、ブランコ、複合遊具 スプリング遊具	あり	あり
春日北公園	30分 1120m	うんてい、すべり台、鉄棒 ジャングルジム、砂場 ブランコ、スプリング遊具	あり	あり
野畑南公園	45分 1860m	アスレチック、複合遊具 ローラーすべり台 ブランコ、グラウンド	あり	あり

## I 教科会からの実践報告

参考徒歩コース	ルート（代表例）	信号	横断歩道
安全に歩く	学校→北緑丘緑道→（歩道橋）→千里川突き当たり右折し、川沿い直進→団地（第3住宅12号棟）の角右折→学校前マンションスロープ→学校	なし	あり
交通ルールを知る	学校→緑丘5の信号渡る→小野原豊中線下る→緑丘4の信号渡る→松林歯科→北緑丘小裏門→学校前マンションスロープ→学校	あり	あり

※2018年度までは、毎年2月に小学部行事として耐寒徒歩学習が行われており、野畑南公園まで歩いていたので、その流れで徒歩の活動も残っている。

### 4. 「散歩」の学習がどのようなキャリアの観点とつながっているか

<豊中支援学校 キャリア教育6観点より>

コミュニケーション力	⑦身近な大人と関わることができる。 ⑧友だちと関わることができる。
協調する力	①集団に参加できる。
ルール理解・遵守力	②交通ルールを守ることができる。 ④順番や決められた時間を守ることができる。 ⑤場面に合わせたマナーを身につけることができる。 ⑨時間を守ることができる。 ⑪遊具で正しく遊ぶことができる。
健康管理力	⑩運動習慣を身につけることができる。
役割遂行力	⑧目的地まで移動することができる。
見通し、行動する力	②見通しを立てて行動することができる。

### 5. まとめ

各学年にアンケートをとった結果、児童の実態によるが高学年になるにつれ、遠くの公園に行き長距離を歩けるようになってきていることが分かった。また、授業の目標によって、ルートに横断歩道や信号があるかどうかを考慮して行き先を設定していることも分かった。散歩の学習により、豊中支援学校のキャリア教育の6観点の中の「コミュニケーション力」「協調する力」「ルール理解・遵守力」「健康管理力」「役割遂行力」「見通し、行動する力」などを育てていることも明らかとなった。しかし、教員の人数が足りないために徒歩学習自体が授業で実施することが困難である学年があることも分かり、今後徒歩学習を継続していくためには改善すべき課題であると言える。これらの結果を学部全体で共有することにより、徒歩学習のさらなる充実を図っていきたい。

## 社会科の授業における ICT 機器の使用に関する生徒の意識調査 ～応用行動分析(ABA)の理論を用いて～

### 目的

GIGA(Global and Innovation Gateway for All)スクール構想が 2019 年度から開始された。一人 1 台のタブレット端末等の配置が学校現場で行われている。本校でもタブレット端末の配置が進んでいる。最新の生徒指導提要では、発達障がいや特性を抱える及びその傾向にある児童生徒への支援に、タブレット端末等の使用が効果的であると述べられている。

そこで、高等部 2 年生 B グループの社会科の授業でタブレット端末を導入し、生徒のタブレット端末使用における意識調査に加え、実践における行動観察を行うことにした。

それらを踏まえどのようにタブレット端末を授業へ用いると、生徒が意欲的に授業参加できるようになるかを考察した。

### 方法

大阪府立豊中支援学校・高等部 2 年生・学習グループ B グループ 11 名を対象とした。

本グループの生徒のポジティブな側面として、教員が課題を明確に設定することで、一人ひとりが集中して課題に取り組むことができる。例えば、「今から静かにプリントに取り組みます。誰が 1 番集中してできるかな？」と筆者が全員に言葉かけをすると、全員がプリント学習等にも集中して取り組むことができている。

プリントに取り組んだ後、タブレット端末を使った学習を行い、実践前後に生徒に質問紙調査(2 項目・5 件法)を行った(図 1)。なお応用行動分析(ABA)の理論を用いて実践を進め(図 2)、生徒の行動観察を行った。

実践者…筆者(森本)

対象…高 2 学習 B グループ(生徒 13 名)

期間…2 学期

方法(概要)…実践前後の質問紙調査による意識調査・実践時の行動観察

計画

9月上旬	質問紙調査(2 項目・5 件法)
9月上旬～ 12月中旬	応用行動分析を用いた授業 理論にもとづく実践
12月下旬	質問紙調査(2 項目・5 件法)

図 1 実践研究についての計画



**先行事象**

(教員の言葉かけ)

**行動**

(積極的な学び)

**結果**

(タブレット端末)

①…教員が生徒のモチベーションがあがるように言葉かけを行い、②を促す。

③…②の後は、タブレット端末を使った学習を保障することで、さらに②を強化し積極的な学びが生まれるように促す。

図 2 応用行動分析を用いた授業理論

## I 教科会からの実践報告

### 質問紙・問1について

「あなたは、タブレット端末を使うことが好きか?」・5件法

(n=11)

実践前(9月上旬)	実践後(12月下旬)
4, 4	4, 5

実践に関係なく、生徒のタブレット端末の使用意識は高いことが分かった。生徒は「タブレット端末を使った学習をしたい」と意見を述べていた。

社会科の授業では、資料(動画・画像等)を使うことが多い。実際にタブレット端末を導入することで、資料の共有がすぐにできた。

また調べ学習を行った際は、生徒がタブレット端末等を使い、興味のある事象について調べていた。

### 質問紙・問2について

「あなたは、社会の授業が好きか?」・5件法

(n=11)

実践前(9月上旬)	実践後(12月下旬)
3, 8	4, 4

実践前後で数値が大幅に上昇した。多くの生徒が「タブレット端末が使えるから」という理由で社会の授業が好きだと答えていた。つまり、“プリント学習に取り組むことでタブレット端末が使える”という保証を与えたことが、生徒たちの社会の授業への動機づけになっていた。プリント学習を続けていると、生徒自身の知識・技能が磨かれていった。そしてプリント学習そのものへの動機づけも強まっていった。

### 行動観察を通して

当初、タブレット端末を使った学習を、プリント学習に対する“報酬”として考えていた。筆者は、「生徒がプリント学習に飽きるのではないかと」考えていた。しかし、プリント学習を通して生徒たちの「できるようになった」「集中してできた」という気持ちが強くなってきた。行動観察では、タブレット端末を使った学習以上に、プリント学習に積極的に取り組んでいた様子が印象的である。

### まとめ

文部科学省(2020)では、社会科の授業でのタブレット端末等の実践効果が述べられている。特にユニバーサルな学びを実現する上でも、タブレット端末を授業に導入する意義は高いと考えられる。

タブレット端末を“生徒にただ渡すだけ”という状態にならないようにする必要がある。生徒の実態に合わせてタブレット端末を授業で導入することが重要である。

### 引用・参考文献

市川哲・森本晃介・ミンビョンホン(2023)「大学生・発達障害児童生徒の授業態度・集中力改善に関する事例」日本学校カウンセリング学会会報第59号 pp.6-9.

森本晃介(2022)「高等部1年生でのピア・サポートを取り入れた授業実践 ～ピア・サポートのトレーニングによる短期効果について～」『大阪府立豊中支援学校研究紀要とよなか vol.32』 pp.26-27.

文部科学省(2020)「社会科、地理歴史科、公民科の指導におけるICTの活用について」

## I 教科会からの実践報告

### 英語科教科会 実践報告

#### 1. はじめに

今年度、高等部1年生の全グループ（4種類5グループ）の外国語の授業を担当している。生徒の特徴として、それぞれのグループには、外国語に興味を持ち毎回とても楽しみに授業を受ける生徒がいて、全体的に発音練習、プリント学習、タイムトライアルゲーム大会、ペアワーク、発表などの活動にも前向きに取り組むことができるところがよい面である。課題としては、A、B1、B2、C、D全グループともグループ内の習熟度の違いがあるため、全体で取り組む活動の中でも、配慮と工夫が必要である。それぞれの習熟度段階にいる生徒たち一人ひとりが、少しずつ外国語の力を積み重ね、意欲的に取り組める活動や、生徒たち同士でのコミュニケーションが生まれるペアワークを行ってきた。以下に今年度実践したICT機器を活用した取り組みを2つ紹介する。

#### 2. 実践事例

##### (1) 【協一①】Cグループ外国語

タブレット端末のアプリ Quizizz で “Animal Quiz” などのクイズを作成した。“Animal Quiz” では歌、フラッシュカードでの発音練習、“What animals do you like?” “I like ~ .” の会話練習を行った後で、animal words の定着を図るため、生徒一人一台タブレット端末を用いての “Animal Quiz” に取り組んだ。

まず、教員主導でクイズを進める設定にし、生徒一人ひとりがタブレット端末に個人名で無料アプリ “Quizizz” にログインし、“Animal Quiz” に参加する。全員が参加出来たら “All done” と表示され、クイズ大会の開始となる。動物のイラストがひとつ表示され、その下に4つの動物単語の綴りが示される。画面上でその1つの単語に触れると、正解なら緑、不正解なら赤に縁どられ、即座に正否がわかる仕組みとなっている。

また全員が1つの問題を完了するごとに正解率が表示され、最後に全員が全問完了すると結果発表の画面となり、花吹雪とともに第3位から第1位までの順位が発表される。入賞した生徒はもちろんのこと、入賞を逃した生徒にとっても次回への励みとなり、意欲の継続につながっている。

最初はなかなか正解することが難しかった生徒も、回を重ねるごとに正解率が上がり、全問正解できる生徒が増えてきて、単語の正しい綴りを覚えることにつながっている。

##### (2) 国際交流活動講師の出身国ブラジルを知ろう 【コー⑧】A、B1、B2グループ

タブレット端末のアプリ Padlet を使用し、ブラジルについての調べ学習を行った。情報の授業で Padlet の使用方法について事前指導をしてもらい、操作方法や検索画像の貼り付け方に慣れてから外国語の授業に導入した。

## I 教科会からの実践報告

- ① ブラジルについて、食文化やスポーツ、観光地など、自分が一番興味を持つ分野を決める。
- ② テーマに沿ってネットで検索し、みんなに紹介したいトピックを決める。
- ③ Padlet 上に自分のページを作り、ネット検索で選んだ画像を貼り付け、自分の名前、紹介したい画像のタイトルを入力する。
- ④ 紹介文を考え、みんなの前で発表する。

### 3. 成果と今後の課題

最初に述べた通り習熟度の違いがある各グループだが、ICT 機器を使うことによって、それぞれのペースでクイズに答えたり、調べ学習を進めたりすることができた。クイズの振り返りや、友だちの発表に対する感想を伝え合う機会を設け、生徒たち同士のコミュニケーションも生まれた。今後も継続して行い、定着を図りたい。

# I 教科会からの実践報告

## 家庭科教科会 実践報告

### 1. はじめに

織物は文科省の「知的障害がある生徒の作業学習」に設定されており、本校でもさをり織りを実施している。手指の巧緻性の向上、手と足の協応、数や長さの認知能力、指示の理解、コミュニケーション能力等が目標とする技能で挙げられる。同じ作業を何度も繰り返し行い、一人ひとりの個性があふれる作品ができることから楽しんで活動に取り組んでいる児童生徒が多い。今回の研修では、さをり織りの準備や手順、そしてさをり織りの特徴や歴史を教わった。

### 2. さをり織りの研修

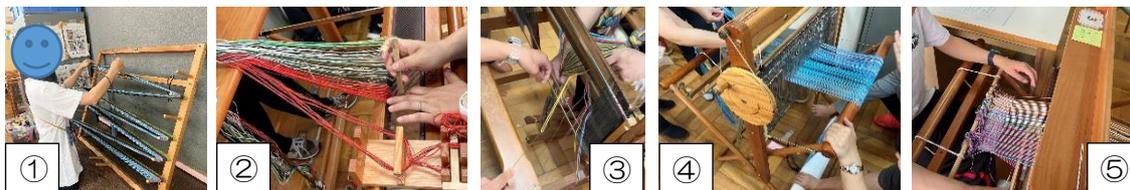
さをり織りの授業を担当する教員（小学部20名（4班編成）、中学部4名、高等部5名、外部より4名）が参加した。3名の講師に研修を依頼し、整経・縦糸の張り方・横糸の巻き方・織り方・織機の管理・修繕の講習を受講した。

### 3. さをり織りの特徴

さをり織りは一人ひとりがそれぞれの発想で織っていくものである。指導ではなく、製作者の良さを引き出すものであり、自分からどんな発想が出てくるのかわからないワクワク感の中で作品を作ることができる。これらのことから、障がいの有無や年齢に関わらず、様々な人と人を繋ぐものになっている。

### 4. さをり織りの手順

- ①整経…縦糸の長さや本数を決める作業である。整経台を使って必要な長さと本数をそろえていく。左右交互に糸をひっかけていき、1番上はクロスさせる。
- ②<sup>おさ</sup>箆通し…綾ホルダーに整経した縦糸をセットし、1本ずつ箆に通していく。
- ③<sup>そうこう</sup>綜統通し…箆を織機にセットし、箆に通している糸を端から順に前後の綜統に交互に通す。
- ④たて付け…織機に縦糸を巻き取っていく。糸が重ならないように紙を挟みながら巻き取る。
- ⑤織る…ボビンに好きな色の横糸を巻き付け、シャトルにセットする。縦糸の間にシャトルを通し、箆を手前に移動させる。縦糸の上下を交代させ、同じ動作を繰り返す。



## I 教科会からの実践報告

### 5. まとめ

本研修の参加者からは、「子どもたちとさをり織りをするのが楽しみになった」「準備の大変さを知った」「また講習をしてほしい」などの感想や、「さをり織りの布を使った製品の作り方も教わりたい」など、織るだけではなく、その先まで学びたいという感想もあった。また学校間のつながりもでき、研修後もさをり織りについて共有できる場を作ることができた。本研修の学びを活かし、さをり織りを通して子どもたちの主体性や作業能力の向上につなげていきたい。

# I 教科会からの実践報告

## 職業科教科会 実践報告

### 1 各学部職業科の指導目標

- (1) 小学部・・・教科設定に職業での実施がないが、生活の授業において栽培を取り入れ、農作業をしている。水やり当番の仕事・花の観察・花の匂い・収穫の喜びなど体験学習をしている。
- (2) 中学部・・・多様な分野の作業および職業体験を通して働くことに関心を持つこと、友だちと協力して安全に作業に取り組むこと、準備や後片付けなども含めて最後までやりきることの3点を主な柱として、生徒の発達課題に合わせて目標を設定している。
- (3) 高等部・・・ワーキングコースの園芸、清掃、委託の3つの科目では基本的な技術、知識を身につけるとともに、集団活動に必要な協調性、マナーを身につける。自主的な実践力、社会人として必要とされる継続する力・適応する力を養わせることを目標としている。トライコースの作業では、作業能力の基礎を培い、総合的な力を身につける。卒業後の進路選択の幅を広げられるためのスキルアップを目標としている。学習グループ ABC で実施している進路学習は将来の生活に係る技能・表現する力・実践的な態度を育むことを目標としている。

### 2 各学部の農作業を取り入れた教育活動

- (1) 小学部では、主に「生活」の活動で栽培に取り組んでいる。サツマイモの栽培に取り組んだり、プランターでプチトマト・ハウレンソウなど野菜を育てたり、ひまわり・チューリップなどの花の栽培をしている。苗や種の植え付けと収穫が主な活動であるが、当番を決めて児童が水やりを行っている。
- (2) 中学部では、主に職業科で野菜の栽培に取り組んでいる。植え付け（種まき）と収穫の間は、他の分野の学習を行いながら、適宜除草や灌水を授業中に行っている。収穫物は、生徒が家庭に持ち帰る。
- (3) 高等部では、今年度からコース制が新しくなり、1年生は「職業」、2、3年生はワーキングコースの「園芸」で校外の畑で土作りから継続的に栽培に取り組んでいる。育てた野菜は生徒が持ち帰ったり、職員室前で無人販売を実施したりしている。「軽作業」では、校内の畑やプランター・花壇で、野菜や花の栽培をしている。

### 3 職業の科目で学ぶこと

#### (1) 謙虚で素直な気持ち ～社会で仕事を教えられる人～

専門分野に興味をもち前向きに授業を受けて、辛い仕事や体力を使う仕事を進んで引き受ける素直な気持ちを育む。教員が自ら動いて手本を見せることで、指示にしたがい前向きに作業をこつこつする。自己主張するだけでなく、周囲を気遣い、謙虚に仕事をする気持ちを育み、社会に出たときに「謙虚で素直に仕事に取り組む」＝「仕事を教えられる人」＝「仕事を覚える人」

## I 教科会からの実践報告

= 「できる人」につながっていけるように学習する。

(2) 現場作業の雰囲気 ～実社会のような経験～

社会での経験が少ない生徒にとって、企業就労のような雰囲気で報告・連絡・相談のハウレンソウをすることができ、自立した気持ちで授業にのぞむ。

(3) 日常生活に活かす ～実践する～

授業で習得した知識や技能を（校内外の全ての）日常生活で実践し、生活を豊かにする。自己肯定感をはぐくみ、技術の習熟につながる。

# 小学部第1学年「生活」の授業の取り組みについて

## ① 小学部1年生の実態

児童28名 教員12名  
(1クラスあたり児童7名・教員3名・計4クラス)

## ② 小学部における「生活」

右の表は、小学部1年生「生活」のシラバスの年間計画です。学年によっては、泊行事の事前学習や調理実習などが加わります。このシラバスを基本に学年ごと、実態に応じて必要な内容を追加して運用しています。

## ③ 生活「校外徒歩」の取り組み

小学部1年生のシラバスの中に、通年取り組む活動として、校外徒歩があります。1学期初めから、教員や友だちと手をつないで列になり、校内の特別教室へ移動する練習を積み重ねました。児童の実態を把握できたところで、校外徒歩へ向けてステップアップしていくことに。

今年度は、生活の授業だけでなく、朝の活動の時間も活用して徒歩学習を実施しました。学年(全4クラス)を2クラスずつに分け、曜日を決めて順番に校外徒歩を設定しました。校内で活動する2クラスから教員を2名捻出し、教員体制を十分に確保した上で、校外徒歩にチャレンジするためです。初めて校外に出ることになるため、スモールステップを設定し、達成感を得ることができるよう、少しでも楽しんでくれるようにと工夫しました。

単元	単元目標	主な学習活動	単元目標の達成状況
生活(1)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(2)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(3)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(4)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(5)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(6)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(7)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(8)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(9)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(10)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(11)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(12)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(13)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(14)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(15)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(16)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(17)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(18)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(19)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。
生活(20)	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。	自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。自分の名前がわかる。

実施時期	内容	体制
6月	事前に動画視聴・ウォークラリー形式	2クラスずつ・応援教員あり
7月	事前に動画視聴・ウォークラリーなし	2クラスずつ・応援教員あり
11月	事前に動画視聴・運動場徒歩	学年全員・応援教員なし
12月	事前に動画視聴・校外徒歩	学年全員・応援教員なし

## Ⅱ 各学部のポスター発表

### 動画視聴

徒歩に出る時の集合場所やコースを、教員が実際に歩いて、動画を撮影しました。徒歩の前に、その動画を視聴し、見通しを持って出発できるようにすることがねらいです。



### ウォークラリー形式

事前に動画を視聴して出発するものの、ゴールの見えない徒歩に気持ちが途切れてしまう児童が出てくるのが予想されたので、「次は何の動物かな？」とすぐ先のイラストを目標に歩くことができるよう、徒歩コースにイラストを貼り付けました。あり→きりんと、進むにつれて大きな生き物が登場します。イラストが一覧になった表と、一枚ずつめくっていけるカードの2種類を用意して、児童の実態に応じて、使用しました。



### ④ 今年度の取り組み

複数の小学校の教育計画を参考に、「生活」を総合・理科社会・保健の3教科に分割して担当者を割り振り1年間固定しました。それぞれ、年間計画を作成して年度のできるだけ早い時期に、学年会で提案して運用しました。年度途中での計画の変更は柔軟に行い、より児童の実態に応じた内容で実施していけるよう意識しました。1年間を通して、しっかりとねらいを持った授業を継続的に積み上げるための取り組みです。

総合 → 誕生会・徒歩・集団遊び・お楽しみ会・国際交流など

理科社会 → 学校探検・栽培・季節の遊び・買い物学習など

保健 → 大掃除・衛生・給食指導・性教育など

### ⑤ まとめ

学校生活が始まったばかりの1年生。まだまだ、どの取り組みも成長途中です。系統性のある学習を意識する、その一方で、次々にハードルを設定して縦に積み上げることばかりが重視されてはいけない（その方が教員も保護者も児童を評価しやすいですね・・・）と考えています。今できること、すでにできていることを、色々な視点から何度も繰り返し、その経験と自信を横に豊かに実らせていくこと、児童の変化を受け取り、価値付けすることができる教員の発達を見る目を養うこと、を忘れないようにしたいです。この一年が、今後の彼らのたくましい根っことなり、これからの学びを支えてくれますように・・・

# 中学部第2学年 進路に向けた取り組み ～仕事について知ろう～

## 進路学習を学年で取り組むことになったきっかけ(目標)

- ★将来にむけて、仕事について考える機会にする。
- ★成功体験を積んで、自信をつける。
- ★苦手な作業にも集中して取り組む。

## 学年目標

みんな かつやく!! ともだちと いっしょに  
**One Team(ワンチーム)**



昨年度は、Let's challenge を目標に様々なことに取り組みました。今年度は、友だちを意識して、みんなで力をあわせて色々取り組んでいこうということを学年で考えました。

豊中支援学校 キャリア教育6観点とその内容項目		職業理解力 (自立学習・社会貢献)		職業理解力 (職業理解)		職業理解力 (職業理解)	
コミュニケーション力 (人間関係・社会関係)	仲間 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり
職業理解力 (人間関係・社会関係)	仲間 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり
職業理解力 (人間関係・社会関係)	仲間 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり
職業理解力 (人間関係・社会関係)	仲間 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり	職業 関わり

## キャリア教育6観点と関連した目標設定

キャリアの観点	学習・活動内容
コー①集団に参加できる。 ②協力できる。 役③係り、当番、代表等の仕事を遂行できる。	グループに分かれて祭りの準備に取り組む。 1G→ビックリ箱の作成 2G→お祭りで使うお金の作成 3G・4G→アイロンビーズの作成、シール貼り など
役④準備・片づけができる。 役⑤安全に考慮して活動することができる。	各グループの実態に応じて、必要なものの準備・片づけを行う機会を設ける。
コー④報告・連絡ができる。 役①学年、クラス、グループ等に属していることを意識できる。 ⑩役割遂行することができないときに、助けを求められることができる。	各グループの実態に応じて、1つの作業ができたなら、「できました」、助けがほしいときは「わかりません、教えてください」など、コミュニケーション手段を身につける機会を設ける。
見②見通しを立てて行動することができる。	各グループでその日の作業の目標を設定する。
役①⑩適正に自己評価することができる。 ⑫作業のミスに気づき修正することができる。	作業終了後に今日の成果を確認する。

## 自立活動学年



はたらくために大事なことはなにか？を学年で学習した。

## 1Gの取り組み



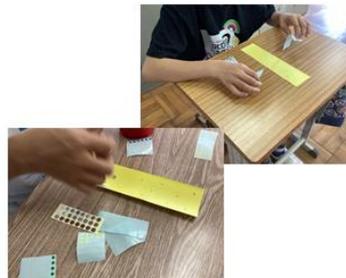
- 目標  
お客様をイメージしてていねいにしごとをする。
- ・きちんと注文通りの寸法を守ることができた。
  - ・わからないことがあれば質問することができた。
  - ・責任をもって取り組むことができた。

## 2Gの取り組み



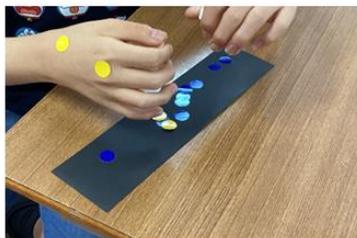
- 目標  
集中力を維持して、決められた時間、作業を続ける力を身につける。
- おまつりで使うための10円玉、100円玉、500円玉を作った。色塗り、はさみを使った切り取り作業、糊で貼り付ける作業などに取り組んだ。

## 3Gの取り組み



- 目標  
・作業が終わったら報告する。  
・次の作業の指示を聞く。  
・商品なので丁寧に作業する。
- おまつりでの景品づくり(アイロンビーズやシール貼り)に取り組んだ。

## 4Gの取り組み



**目標**  
 ・作業の内容がわかる。  
 ・一定時間、作業ができる。  
 ・落ち着いて取り組む。

おまつりでの  
 景品づくり(シール貼り)  
 遊具づくり(ペットボトル  
 にお花紙詰め)に取り組  
 んだ。

## おまつりでのようす①



輪投げとグラ  
 ウンド・ゴルフ、  
 魚釣りの店番  
 に取り組んだ。

## おまつりでのようす②



3店舗回ったら、  
 スタンプをも  
 らって景品を  
 受け取ります。

## グループ活動での達成点①

### ～グループ活動(作業課題)～

グループに分かれて作業を行うこと  
 で、課題が明確に分かり集中して作  
 業に取り組める時間が増えた。また、  
 ホウ・レン・ソウも意識し取り組む  
 ことができた。

## 達成点②

### ～クラス活動(おまつり)～

クラスで、どのお店を担当するのか、当  
 日の役割は何をするのかを話し合うこと  
 で、みんなで協力し責任をもって役割を  
 果たそうとする様子が見られた。

## 反省点

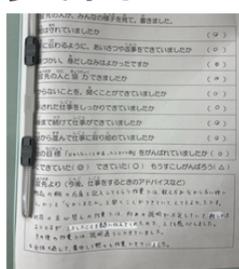
作業に関しては、実態に合った課題を準備  
 したこともあり、どのグループも見通しを  
 もち、落ち着いて作業に取り組むことが  
 できた。おまつりに関しては、もう少し店の  
 回り方や、お金の使い方等、練習を通し  
 てから行う方がスムーズにできたと思う。

## 実習でのようす(野畑)



・シール貼り、リサイク  
 ル印を押す、本の修復  
 の作業に取り組んだ。  
 ・職員さんの指示をよく  
 きいて、集中して作業  
 に取り組んでいた。

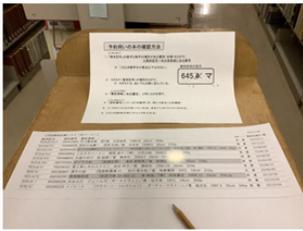
## 実習でのようす(事務)



・封筒の並び替え作業  
 や物品の在庫調べな  
 ど。  
 ・実習後、担当者より  
 評価シートにて評価を  
 していただく。

## Ⅱ 各学部のポスター発表

### 野畑図書館での実習でのようす(1G)



- ・リストにある予約伺い本を書庫から探す。
- ・教えてもらうたび、「ありがとうございます。」と挨拶することができた。
- ・わからないときは、質問することができた。

### 野畑図書館での実習でのようす(1G)

- ・予約伺い本を配送別に仕分ける。
- ・番号順に並べた後、番号シールを貼る。
- ・間違えたときは、「すみません、間違えました。」と報告することができた。

### スーパーマーケットでの実習でのようす(2G)

- ・お店の人の説明を聞き、商品を並べる仕事に取り組んだ。
- ・二日目には大きな声で「いらっしゃいませ！」と挨拶することができた。

### 実習でのようす(校内)



- メモ帳づくり
  - ・20枚紙を数える。
  - ・カッターで切る。
  - ・52枚紙を数える。
- 言葉遣いや丁寧な作業を心がけた。

### まとめ

学年での進路学習を通して、普段の授業で作業に集中できる時間が長くなったり、日常生活の中でも言葉遣いを意識したりする生徒が増えてきた。また、学年教員や校外の人との関わりを通して、それぞれの課題を確認することができた。

これからの課題として、今回の取り組みをより発展させて、様々な教科と連携しながら、言葉遣いや取り組める作業を増やしていくことで、次年度、高等部に向けてより自分の進路を見据える機会になると考えられる

# 高等部第3学年「情報」 ～修学旅行の取り組み～

## ① 生徒の実態

高等部3年生、ABグループの生徒11名。教科「情報」の授業（4月から7月まで全16回）で行った。ABグループとあるが、1年生と2年生の時は全員Aグループとして授業を行っていた。3年生で大幅なグループ変更があり、旧Aが2つ（現AとB）に分かれたが、「情報」はABグループ合同で行っている。

生徒については、自分から考えて動ける生徒と、教員の指示を理解して動ける生徒まで幅広い。発言についても、積極的に自ら発言できる生徒から、教員の質問に答える方が発言しやすい生徒まで幅広い。理解力においても、かなりの幅がある。（なので今年度からAとBに分かれて座学は授業を行っている）

## ② 目標（目的）

- ・1年生と2年生の情報の授業で学んだことを活かして、修学旅行の生徒用しおりを自分たちで作成する。
- ・動画編集ソフトの学習も兼ねて、修学旅行後の振り返りムービーを自分たちで作成する。
- ・3年間の情報の授業の成果を、成果物として、自分たちの力でしおりとムービーを完成させる。自分たちで考え、自分たちで話し合い、自分たちで完成させたという「自ら考え動く力」と「達成感」を得る。

## ③方法（使用ソフト等）

Microsoft Word    Microsoft Excel    Microsoft Edge    Google Chrome    Apple iMovie  
など

## ④スケジュール（実施日）

生徒用しおり	4/18～5/16（修学旅行5/24～5/26）	全10回
振り返りムービー	6/13～7/18（学年集会7/20に鑑賞）	全6回
全体のまとめ	9/5～9/12（反省と感想の記入）	全2回

## ⑤手順（手だて）

（【コー②】【コー③】【協①】【協②】）

- ・1時間目（初回）…まずは全体の取りまとめ役を決めた。取りまとめ役が決まったら、しおりにはどんなページが必要かの全体的な構想を皆で話し合った。次にどのページを誰が作成するかのグループとメンバーを決めた。取りまとめ役は全体の把握、調整でグループには入らない。グループは5グループ（各2～3名）で構成し、それぞれどのページを担当するかの役割表を作成した。

※下記の役割表も自分たちで話し合って決めた。

内容	詳細	担当生徒
全体の取りまとめ	全体把握、案内、調整	1名
行程表等	1日目～3日目、マップ、お土産リスト	2名
座席関係	新幹線、バス、食事	3名
表紙関係	表紙、裏表紙、感想欄	1名（サブティーチャー1名）
マナー関係	持ち物、風呂、食事、交通機関	2名
グループ等	行動班、部屋割、健康カード	2名

## II 各学部のポスター発表

### ・2時間目～5時間目 (【コー②】【コー③】【協①】【協②】)

役割が決まったので、それぞれ自分の役割のページを完成すべく、作業にとりかかった。実際やってみると何をどこまでしおりに書くか、個人情報はどこまで記載するかなど、細かい調整が必要となった。その際は取りまとめ役が入り相談し、教員に確認をした。

5時間目が終わった時点で一度プリントアウトし、実際に紙に出して生徒同士で回覧した。実際「紙」に出してみると文字が小さかったり、他のページとのポイントやフォントが違ったり、色々な調整箇所が見つかったので、取りまとめ役が中心となり調整した。

### ・6時間目～9時間目 (【役④】【役⑨】【見①】【見②】)

修正後、再度「紙」に印刷。8時間目が終わった時点で学年の教員に回覧した。教員の目線から見ると調整箇所は多くあったが、あくまで生徒が自分たちで作ったという達成感を味わうことを目的としているため、明らかな間違い以外は変更するかしないかは生徒に任せた。明らかなミスは修正したが、見易さや細かい修正点は生徒たちに「こういう意見をもらったが…」ということ伝えて、変更する、しないは生徒たちに任せた。

### ・10時間目 (【役④】【役⑨】【見①】【見②】)

教員確認後の最終調整を経て、印刷を開始した。印刷したものを冊子(順番にしてホッチキスとめ)にするのは、CDグループの作業の授業に依頼した。そこまで終わった時点で生徒の達成感はかなりあった。

### ⑥振り返りムービーの作成(6/13～7/18の全6回) (【コー②】【コー③】【協①】【協②】)

修学旅行で教員が撮影した写真の中から、生徒が自分たちで選んで動画作成ソフト(iMovie)を使い、タブレットで編集して動画を作成した。修学旅行の行動班のグループに分かれ、班毎に写真を選び、曲なども入れてそれぞれ違ったムービーを自分たちで試行錯誤しながら作成した。そのムービーを1学期の最後の学年集会で学年全体で鑑賞した。

### ⑦全体のまとめ(9/5～9/12の全2回) (【役④】【役⑨】【見①】【見②】)

しおりとムービーのまとめとして、A41枚のレポート形式で反省や感想をまとめた。まとめたことを話し合い、情報の共有をした。

### ⑧最後に…

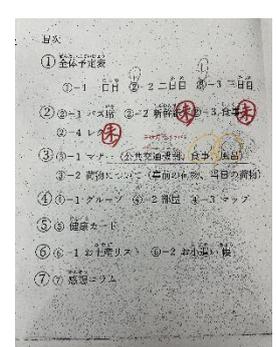
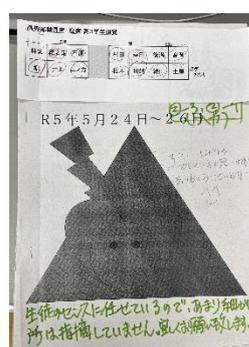
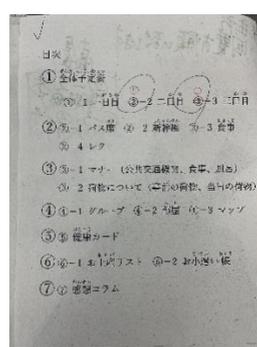
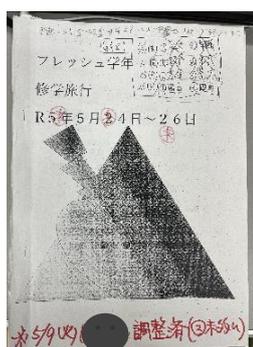
今回の授業は「主体的・対話的で深い学び」になったと思う。ただあくまで、1年生と2年生の2年間の情報の授業の土台があったから、このようなことができたと思う。生徒たちは、自分たちで考え、自分たちで話し合い、自分たちで完成させたという達成感と満足感を得ていたように感じた。

(1回目の生徒回覧)

(自分たちでチェック)

(2回目の教員回覧)

(教員のチェックが入る)



# みる・きくワーク ～ 物語の動画を見て考える ～

国語科教科会

## ◎生徒の実態

◇中学部2年生 国語1グループ

◇話を聞いて理解しているように感じられるが、教員が質問すると話の意味合いを取り違えて答えたり話の内容そのものがわかっていなかったりすることが多い。

## ◎「みる・きくワーク」とは

世界や日本の物語の動画を見て、事前に提示されたポイントに沿ってメモを取る。動画視聴後、メモを見ながら5～6問程度の問題プリントに解答する。問題プリントには正解が1つしかない場合と複数の解答がある場合がある。答え合わせをして正しく聞き取ることができていたかどうかを確認する。

複数の解答がある場合



自分がそのように考えた理由を話す。



考えを聞く。

## ◎なぜ、物語の動画なのか？

生徒にとって馴染みのある物語の動画を使用することで興味・関心を促すと共に、メモを取りながら話を聞くことに対する苦手意識を感じさせないようにしたかった。また、視聴する物語の結末を知っていても、事前に提示されたポイントに沿ってメモを取ることで、正しく内容が聞き取れていることを生徒自ら確認できると考えた。



## ◎〈目標・ねらい〉と〈キャリアの観点〉

◆物語の動画を視聴し、提示されたポイントに沿ってメモを取ることができる。

→様々な情報から必要なものを得ることができる。【見-①】

◆書いたメモを見ながら、質問に正しく答えることができる。

→話を聞き、理解できる。【コ-⑥】

◆自分の考えをまとめて、伝えることができる。

→自分の意見を伝えることができる。【コ-③】



### Ⅲ 教科会のポスター発表

#### ◎実践の流れ

①メモを取る時のポイントを提示する。

②物語の動画を再生する。

(メモを取りながら動画を視聴するように促す。)

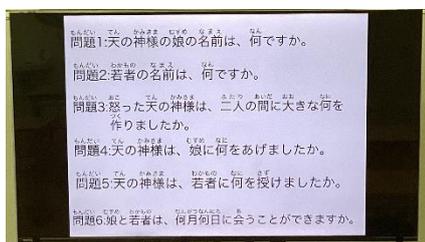
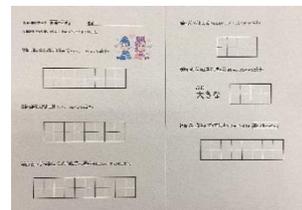
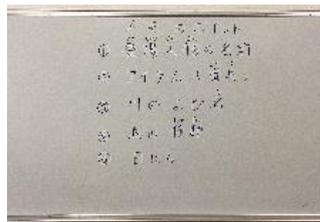
③質問を提示する。

④問題プリントを配付する。

(メモを見ながら問題プリントに解答するように促す。)

⑤スライドで適宜、説明しながら答え合わせをする。

(生徒を順番に指名して答えを聞く。解答が複数ある時は、全員を指名して発表するように促す。)



#### ◎取り組んだ結果

「みる・きくワーク」を始めた頃は、物語の内容をすべて記入しようとする生徒や、全くメモを取らない生徒がいた。しかし、「提示されたポイントに沿ってメモを取る。」→「動画を視聴する。」→「質問に答える。」→「答え合わせをする。」という一連の流れが定着するとポイントを意識してメモを取る生徒が増えた。また、複数の解答がある場合、そのような考えに至った理由について活発に意見交換する場面が見られた。



#### ◎今後の課題

物語だけではなく、テレビで放送されるニュースの内容や教員の話した内容を聞いてメモを取る活動へと広げていくことで、日常生活の様々な場面で適切に話を聞くことができるようになれば望ましいと考えている。

# 理科の授業紹介（「五感」を使った金属の分類）

理科教科会

高等部学習指導要領では理科1段階C物質とエネルギー、ア物の溶け方の中で、飽和や再結晶について理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。とされている。高等部1年生では、さらに物質の粒子性につなげることを念頭に置き、観察、実験に関する初歩的な技能の一つとして、五感による分類の学習を導入としている。今回はその五感を使った金属の分類についての授業を紹介する。

\*事前の学習で、人間の五つの感覚（五感）によってどのようなことが見分けられるかをプリントに整理した。そのプリントに沿って5種類の金属を一人ずつ渡し、金属名を伏せて分類を行った。

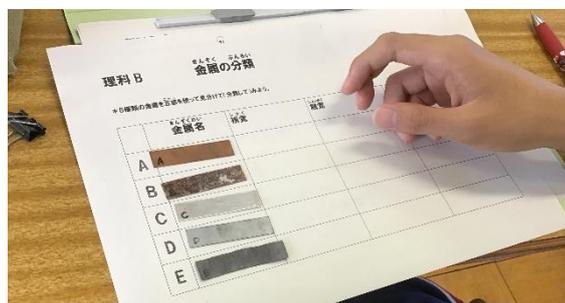
①	目	視覚	色、形、光沢
②	鼻	嗅覚	臭い、刺激臭
③	耳	聴覚	音
④	口(舌)	味覚	甘い、辛い、酸っぱい、苦い
⑤	手	触覚	つるつる、ざらざら、硬い、柔らかい、重い、軽い
⑥	?	第六感	?

\*分類に関しては、下記の注意事項に留意しながら行うように指導した。

- 5種類の金属の特徴（情報）から五感を使って必要なものを選択し【見-①】
- 自分の意見として発表する。【コ-③】

1 <視覚>色に注目し、明らかに色の違う「銅」を見つける。

2 <嗅覚><聴覚>については、分類を試みながらも金属の分類にはそぐわないことを確認する。



3 <味覚>金属には、口に入ると有毒なものもあることを伝え、味覚による分類は見送る。

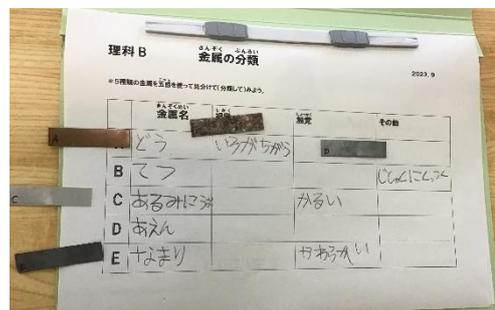
4 <触覚>重さに注目し、軽いもの「アルミニウム」と重いもの「鉛」さらに柔らかさから「亜鉛」を分類する。

5 <第六感?>残ったものが何なのか、見分ける方法を考える。

\*五感の学習の後に行うものなので、嗅覚、聴覚、味覚についてもアプローチをしたい様子うかがえた。それらの感覚も含めた分類ができれば、なお思考が深まるように思われた。柔らかさについては「鉛」の柔らかさに注目する生徒が多く、残った「鉄」と「亜鉛」を見分ける方法として、磁石を使った分類を思い



ついてほしかったが、なかなか難しかった。最終的には磁石にくっつくものが「鉄」というように分類を行った。



ICT を活用した「やってみたい」を促す授業 ～Keynote を使った取り組み～

①音楽科教科会 小学部

◎小学部1年生の音楽の授業形態

- ・小学部1年生、全4クラス28名を2クラスずつの2グループに分けて、音楽室にて授業を行っている。
- ・クラスで分けているため、発声や発語、楽器の扱い方などに関して、様々な段階の児童がいる。

◎「音楽」の授業の流れ

- ① はじめのあいさつ
- ② はじまりのうた
- ③ 手遊び歌(「ぱんぱんぱん」や「しあわせならてをたたこう」など)
- ④ 歌(「かえるのうた」や「とんぼのめがね」など季節の歌)
- ⑤ 楽器(鈴やタンバリン、マラカスなど)
- ⑥ ダンス
- ⑦ 鑑賞(季節に応じた曲)
- ⑧ おわりのうた
- ⑨ おわりのあいさつ

☆Keynote で作成したリズム表の活用

2学期：『簡単なリズムに親しむ』を目標に、タンブリンを用いて「ぶんぶんぶん」に取り組む。

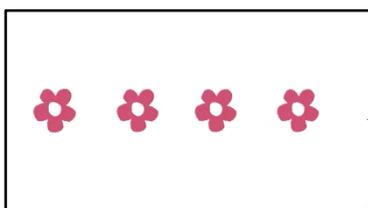
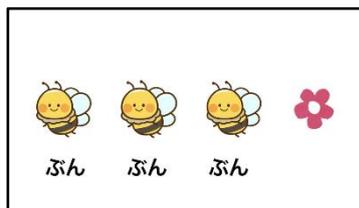
- ・教員の手本
- ・簡単な表をさし示す



- ・児童の興味が惹けない
- ・表の理解が難しい
- ・教員配置に余裕がない



Keynote で、楽器を鳴らすところ、鳴らさないところをそれぞれ違ったマーク(今回は鳴らすところを「ハチ」、鳴らさないところを「花」で表した)で表し、楽器を鳴らすところで絵が動く動画を作成。



実際にテレビに映した動画の一部。リズムに合わせてマークが一つずつはねるように動く。

- ・Keynote 作成の表をテレビで映す。



- ・テレビに映すことでよく見る児童が増えた。
- ・表に着目するようになったことで、自然と楽器を鳴らすことができるようになってきた。
- ・前奏や間奏などの楽器を鳴らさないところにも着目できるようになってきた。
- ・表でリズムを示しながら、教員が手本を見せることが可能になった。

◎今後の課題

今回、「ぶんぶんぶん」の曲に関心を高めてもらおうと、Keynote 作成の表には「ハチ」「花」のマークを用いたが、今後は使用する楽器のマークにしたり、色のついた丸で示したりして汎用性を高めたい。また、小学部1年生という学年も考慮して、ICT と合わせて、ペープサートやパネルシアターなど様々な教材に出会う機会を大切にしたい。

ICT を活用した「やってみたい」を促す授業 ～楽譜作成アプリを使った取り組み～

②音楽科教科会 高等部

実践報告 1

合奏『ドラゴンクエスト序曲』に3グループで挑戦 【コー③⑧】 【協一②】 【役一②】  
対象生徒 高等部 1年 B1,B2,Dグループ  
使用したアプリ 「MuseScore3」, 「Luma Fusion」

このアプリを使用した理由とねらい

楽譜作成アプリ「MuseScore3」を使いスコアを作成することで、楽曲を編曲したプランナー以外の教員も作成した楽譜を見て指導できる点を考慮し使用した。また、作成した楽譜のテンポを生徒の実態に合わせて自由に変えて再生することで、各グループ合奏時の音源にすることができるとも考えた。本校は学年で集まって合奏することが難しいので、グループごとに動画を撮影し、編集合体することで他グループの演奏を意識することも試みた。

手順

- ① 生徒がやってみたい楽器を選択する。
- ② 教員が楽譜作成アプリ「MuseScore3」を使って、生徒が選んだ楽器と生徒の実態に合わせて編曲する。
- ③ 作成した楽譜を再生して各グループ演奏時の基本のテンポや音にする。
- ④ 各グループの動画を撮影後、「LumaFusion」で編集し、1つの動画にする。
- ⑤ 1つになった動画を各グループで鑑賞し、感想を述べる。



MuseScore3 を使用して作成した『ドラゴンクエスト序曲』の楽譜の一部分

成果

- ・生徒が市販の楽譜にはない楽器を選択することができた。
- ・本校の実態、個人の実態に合わせて編曲をすることができた。
- ・作成した楽譜を基本の音源として使うことができた。
- ・楽譜の読み方を知らなかったが、パート譜を画面に映し出してリズム練習をしたことで、楽譜を見ながら曲に合わせてひとりで演奏できるようになった生徒もいた。
- ・B2グループの生徒から「Dグループの生徒が上手だった。」という他グループを讃える感想がでた。

### Ⅲ 教科会のポスター発表

#### 実践報告 2

「カノン形式」の楽譜を作ろう 【コー②③⑧】 【協①②】 【役②④】

対象生徒 高等部 1 年 B1, B2 グループ

使用したアプリ 「Flat」

#### このアプリを使用した理由とねらい

Bグループでは、パッヘルベル作曲の『カノン』をトーンチャイムで演奏することに取り組んでいた。カノン形式については事前に学習していたが、自分たちで『かえるの合唱』の多声部の楽譜を作成することで、カノン形式についての知識の定着を図るためにこのアプリを使用した。

#### 手順

- ① 教員が三人一組の生徒グループを作り、三人が協力し合ってタブレットのアプリを使って作成すること、一人だけがアプリを独占することのないように事前に指導した。
- ② 教員がテレビ画面でアプリ操作の手本を示しながら、生徒は楽器を選んだり、曲名を入力したりする。
- ③ 音名が書いてある手本の『かえるの合唱』の楽譜を見ながら鍵盤入力で楽譜を作成する。その際、わからないことは教員に随時質問する。
- ④ できた楽譜を再生、発表し、正しく作成できているかを耳で聴いて確認する。
- ⑤ 楽器を追加して楽譜を 1 段増やし、1 段目の楽譜をコピーして、追加した段の 3 小節目にペーストする。
- ⑥ 2 声部になった楽譜を再生、発表し、カノン形式になっているかを耳で聴いて確認する。
- ⑦ 楽器を追加し声部を増やし、多声のカノン形式の『かえるの合唱』を作成していく。

#### 成果

- ・グループで協力し合って楽譜を作成することができた。
- ・中心になっている生徒が参加できていない他の生徒を思いやって、役割分担をする場面も見られた。
- ・発語を苦手とする生徒が、普通の授業とは違って中心になって作業する場面が見られた。
- ・音符や休符を意識して楽譜を作成し、楽譜作成アプリの使用の仕方を簡単に学習することができた。
- ・カノン形式について確認することができた。

このスコアはFlatの無料アカウントで作成されました - <https://flat.io/ja>

Flat を使用して生徒が作成した『カエルの合唱』の楽譜の一部

# 今日から実践できる図工のあれこれ

図工・美術科教科会

小学部の図工の授業では・・・

段階を踏んで・・・

道具を使うことが難しい

どんな支援がある？

【低学年】

手で着色する  
手で紙をちぎる など  
〈直接素材に触れて制作活動〉

筆やパスで描く  
はさみで紙を切る など  
〈道具を使つての制作活動〉

## クレパス、色鉛筆、筆など

- ・チョークホルダー、クッション、布、滑り止めマットなどを巻く。  
→しっかりと持って描くことができる。



## はさみ

- ・上から押し切るはさみ、カスタネットはさみ、バネ付きはさみを使う。  
→指で開閉しなくても切ることができる。
- ・切る箇所に点で切り込みを入れておく。→切りやすい。
- ・1回切り、2～3回切り用紙を使う。→簡単に切ることができる。



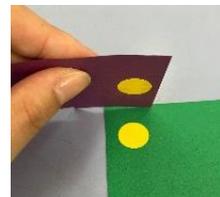
## 絵の具パレット

- ・浅い4つ割のタッパー、5個程度の製氷皿に絵の具を入れる。  
→数が少なくて色を選びやすい。
- ・豆腐パックやプリンカップ、牛乳パックに絵の具を入れる。  
→授業後に捨てられることで片付けの時間を短縮できる。
- ・トレイなどに絵の具を入れた容器を貼り付ける。  
→ひっくり返し防止、筆とセットにできる。
- ・色を混ぜるときにペットボトル等に入れて振って混ぜる。  
→徐々に色が変わっていく様子を見せることができる。



## のり

- ・のりに絵の具で色をつける。  
→塗ったところがわかりやすくなる。
- ・貼る位置に丸シールを貼る。  
→マッチングをして貼ることができるようにする。



### 〈目標・ねらい〉と〈キャリアの観点〉

・使いたい材料や色を選ぶことができる。	【コー③】 自分の意見を伝えることができる。
・もっとしたい/もうできたを判断して伝えることができる。	【ルー⑪】 道具を正しく使うことができる。
・筆やはさみなどの道具を正しく安全に扱うことができる。	【健⑭】 充実した余暇を過ごすことができる。
・絵を描く、粘土をするなど好きな活動を見つける。	【役①】 物を扱うときの基本動作ができる。
・いろいろな道具や素材に触れることで、いろいろな手指の動きを経験する。	

# リトミックの実践について

保健体育科教科会

## 【 小学部児童の実態 】

体を動かすことが好きな児童が多く、昼休みは、バランスボール、ミニトランポリンを使った遊びや、中庭の遊具などそれぞれ思い思いに体を動かして楽しむ様子が見られる。その一方で、ミニハードルを両足同タイミングで跳びこえる、跳び箱についた手で体重を支えるなど日常生活であまり行わない動きではぎこちなさや苦手な様子が見られる。

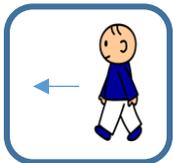
## 【 目標・ねらい 】

- 基本的な体の動かし方を身につける。
- 体の部位を意識して動かす。
- 体を動かす楽しさを知り、自ら動かそうとする。

## 【 キャリアの観点 】

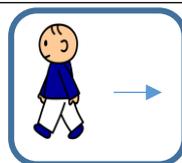
- 【協一①】 集団に参加できる。
- 【コ一⑥】 話を聞き、理解できる。
- 【健一⑩】 運動習慣を身につけることができる。

### リトミック1



前進

### リトミック2



後進



うさぎ

その場で両足跳び



かえる

手を床につき、膝を曲げた姿勢から跳び上がる。



とんぼ

手を水平に広げて走る



めだか

腕を前方に伸ばして手を合わせ、左右に揺らしながら走る。

## ★ポイント★

◎系統立てた取り組み

リトミック1（1～3年生）

リトミック2（4～6年生）

◎身近な動物を設定

「うさぎ」「かえる」「とんぼ」など

◎動きや動物にちなんだ曲

## ☆子どもたちの変化☆

### 低学年

繰り返しの中で音楽や言葉かけを聞いて、できる動きが増えた。

### 高学年

細かい部分まで意識して体を動かすことができた。

## 【 まとめ 】

今後の課題は、リトミックで獲得した動きを土台として、様々な種目やルールのある運動に取り組み、活動や運動の幅を広げることである。また、児童が学校卒業後に、健康の保持増進や他者とのつながりをもつために、生涯を通して運動に親しんでほしいと願っている。